県産いちご全国にアピールを

　クリスマスが近くなり、スーパーやスイーツ店で真っ赤なイチゴについ、目を奪われることが多くなった。

　三重県民は、イチゴが大好きである。総務省の家計調査から、都道府県庁所在市別の１世帯あたり（２人以上の世帯）のイチゴの年間購入金額（２０１８年）をみると、津市が、イチゴの有名な産地がある栃木県（宇都宮市）をおさえ、全国１位となった。１７年から１９年の平均購入金額でみても５位と、イチゴの需要が大きいことがわかる。

　１８年の農林水産省の生産農業所得統計から、県内の野菜の産出額をみると、イチゴはトマトに次いで２位。しかし、全国で比較すると、イチゴの産出額は２５位にとどまり、近隣の愛知県（６位)、岐阜県（２１位）と比べても低い。金額ベースでみると、１位の栃木県が２５７億円、２位の福岡県が２１３億円に対し、三重県は１９億円で、上位県の１割にも満たない。

　また、同省の農林業センサスから県内のイチゴの作付け経営体の数をみると、最も多いのは松阪市だが、地域内に占めるイチゴの作付け経営体数の割合は玉城町が最も高い。

　玉城町は現在イチゴを核として、生産から販売まで一貫してプロデュースする地域商社の設立を進めており、農産品のブランド力の強化や販路拡大を目指している。地域商社が域内の生産品を取りまとめることで、出荷量を確保できるため、地域ブランドとして販売しやすくなるといったメリットがある。

　イチゴ好きな人の多い三重県は、県内のイチゴ生産者にとって魅力的で、販売の伸びしろがある市場といえる。市場拡大のためには、県内で多く生産されている章姫や県開発品種のかおり野、よつぼしなどの魅力を全国でさらにアピールしていくことも重要だ。県産イチゴが、とちおとめやあまおうに負けないくらい全国に広がっていくことを期待したい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 研究員 額田 夏生）

毎日新聞「三重～る経済」 2020 年 12 月 22 日